

お盆の花き商材

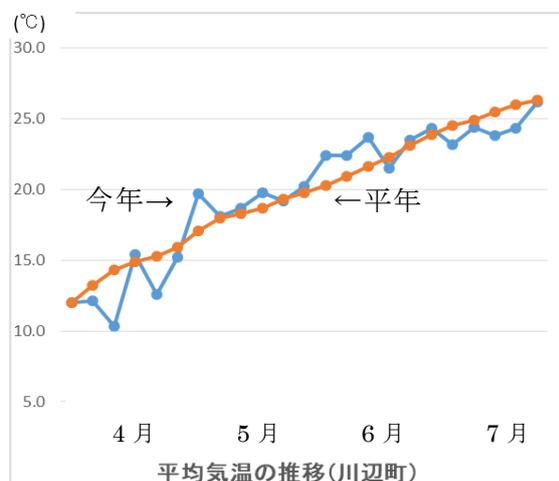
お盆は、仏教において、故人のたましいが浄土から現世に戻ってこられる期間のことをいい、もとは7月15日を中心に行われていましたが、明治時代に改暦され、現在は8月13～15日に行われることが多くなりました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、様々な行事が制約されていますが、お盆は美しい花を飾って故人やご先祖を心静かにお迎えしたいものです。

さて、図1は今年の気温の推移を示したものです。4月は比較的低温推移しましたが、5月から6月は高温基調となりました。7月上旬は長雨で気温は低温推移しましたが、お盆の花は現在のところ順調な生育状況となっています。

〈スプレーマム〉

お盆の花では、スプレーマムが本県の主力品目です。計画的な定植やシェードの徹底等により、高品質な切り花



を8月上中旬に出荷できるように努めています。

〈ケイトウ〉

紀南地域を中心に栽培されています。病害虫に強く、切り花適期が長いので、栽培しやすい品目です。鮮やかな赤色はお盆の花を引き立たせてくれます。花持ちが良くボリューム感もあるので使いやすい商材です。

〈切り枝〉

高野槿やビシャコなどの枝物もお盆にはかかせない商材です。高野槿は大変花持ちの良い商材で、お墓などで高温さらされても緑色が保てる大変丈夫な切り枝です。ビシャコは葉が小さく、使いがっのの良い商材です。

〈その他〉

お盆の商材としては、小菊、輪菊、アスター、ホオズキなど様々な種類の切り花があります。今後も根強い需要が見込まれるため、生産拡大に取り組んでいきたいと考えています。

(県農野菜花き販売課)